

## 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成28年2月17日（水）

午後1時30分～3時30分

【会場】裾野市生涯学習センター 学習ホール

### 1 出席者

- ・ 発言者 裾野市において様々な分野で活躍されている方  
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 170人

### 2 発言意見

	項 目	頁
発言者 1	新聞紙バックの取組による被災者支援	2
2	ロボットを通して	5
3	小さな会社から幸せなまちづくりを	8
4	誕生学による次世代育成支援	11
5	市民協働によるまちづくり推進協議会の活動について	16
6	深良用水を活かしたまちづくり	21
傍聴者 1	二宮尊徳について	28

**【川勝知事】**

皆様、こんにちは。県知事の川勝平太でございます。

今日は霊峰富士が顔を見せられておりまして、また箱根、愛鷹山、このすばらしい山々に囲まれた裾野にやってきました、大変幸福です。

この広聴というのは広報の反対で、広報は我々が広く知らせるということですが、広聴というのは広く拝聴すると、御意見を賜るというものでございます。そうしたことで、今日は偶々男の方3人、女性の方3人ということで、男女共同参画社会にふさわしい3人の方々がそれぞれの分野から選ばれて、今日我々に御意見を言っていただくと。

聞きっ放しということはしないというのがもう1つの特徴であります。もし御要望であるとか、即この場で決められることがありますれば、ここで決めてそれを実行すると。逆に決められなくて持って帰らなくちゃならない場合、持って帰りまして、後日必ずそれについてどういうふうにするかということをお報告申し上げますと、こういうことになっております。

裾野は御要望というよりも、学ぶべきことの方が多いうふうに思っております。最近深良の用水が世界のかんがい遺産に一昨年ですか、おめでとうございました、大したものですね。1670年代というんですから、もう本当にそれが世界の宝物になったということでございますし、さらに、市長さん、またリーダーの方たち、市民の方たちの協働で、女性が一生に産むお子様の数が1.82ということで、これはもう本当に私にとっても大変朗報でございます、子育てが非常にしやすいところだと。

また東名もすぐそこでございますし、246号線もございます。さらに御殿場線もありますし、交通の便がすごくいいということでしょう。したがって景色がいいと、交通の便がいいということになると、住んでよし、訪れてよしというそういう土地柄をお持ちだということで、これからこの裾野をどうキープしていくかというそういう段階になっているんじゃないかということで、御一緒にどういうよさを我々が県として裾野と一体になってやっていくか、そういう機会にもなればというふうに願っている次第でございます。

今日は一生懸命勉強させていただきますので、どうぞよろしく願いをいたします。

**【発言者1】**

忘れない、続けられることを、この言葉を体に染み込ませるように活動しております。I P P O 絆の会新聞部新聞紙バッグ・クリエイターの発言者1と申します。こんにちは、

どうぞよろしくお願いいたします。

このたびは皆様の前で私たちの活動を伝える機会を与えていただき、とても恐縮しております。ほかにもさまざまな取組の皆様がいらっしゃる中、なぜお声をかけていただけたのかと緊張しております。いろいろありますので、番号をつけて整理してきました。

1 番、新聞紙という身近でたやすく手に入りやすい材料を使っていること。

それは挑戦しやすい、取り組みやすい。

2 番、でんぷんだけでつくり上げていくので、負担が環境にも少ない。

3 番、水分で濡れない限りは、ぼろぼろになるまで頑丈に使い、破れてしまったら古紙回収にそのまま出せます。これは環境エコロジーバッグというふうになるわけです。

4 番、お気に入りの写真や広告、記事を自分の望む形でオリジナルバッグがつくれます。記念となるような記事の紙面のバッグは、プレゼントとしてもとても喜ばれます。私はこのバッグをプレゼントして、普段の生活だけでは知り合えない方々とお話をさせていただくという機会がたくさんありました。それはうれしさとともに、今後の生き方をどう考えていくのかを深く勉強していかなくてはならないという今までにない重みを受け止めております。

5 番、物づくりの楽しさを多くの人と味わえるワークショップを定期開催しています。今まで裾野、御殿場、沼津、清水町、富士、三島、東京、藤沢、各地で開催しています。私たちの考えに賛同していただき、バッグづくりに魅了された各地のメンバーが講師となり主宰するワークショップも藤沢、湯河原、東京、寒川町でも行われました。

情報を得る紙が物を包む、運ぶ道具となるおもしろさ。簡単にできるけれども、ほんの少しコツが要ります。コツを覚える時間の共有、覚えたり教えたり教わったり、記事を読みながら笑ったり怒ったりしながらもバッグを完成させる時間の使い方、充実度の高いワークショップです。

6 番、新聞紙バッグの活動の収益の一部を福島県相馬市震災孤児・遺児の支援と、少しずつでも募金を継続していること。

7 番、活動の動機。2011 年 3 月 11 日、この日からすべてが変わりました。人は無力である、それでも命あるものは生きていかねばならない。一人では生きてはいけない。だが、覚悟を決めて向かっていかなくてはいけないこと。何もできず、役にも立てず、どうしたらいいんだろうかと悩んでいるときに、裾野市在住の男性友人たち 5 人が、相馬市にボランティア活動に向かいました。

実は裾野市は 3.11 の前の平成 19 年 2 月 7 日に相馬市と約束をしています。それは相互の災害発生時に各種応急復旧活動に関する人的・物的支援について、自治体などと締結している応援協定です。彼らはその約束があり向かったのですが、まだまだ混乱状態でした。

現地と離れている私たちは何ができるのだろうかと考えているときに、彼らが現地で見つけた震災孤児経済支援の缶バッジ募金、裾野市青年会議所OB会が活動されていました。募金先も納得できる場所だったのです。「相馬市震災孤児等支援金支給基金」、裾野市議会平成 23 年第 2 回臨時会で制定された基金です。

その年の 5 月 17 日の相馬市調べでは、相馬市の震災孤児は就学前 4 名、小学生 9 名、中学生 14 名、高校生 13 名、卒業生 4 名、就学前の子供たちがせめて高校を出るまでは何かできる応援をしたい。缶バッジで募金支援活動なら、これなら裾野でもできる。缶バッジで、これはもう早速取りかかろうと、有志のバッジづくりに走り回りました。

ここからが I P P O 絆の会の結成となります。そして 2011 年 7 月から始まり、デザインも時とともに変え、第 8 段となっております。缶バッジデザインを担当しているイラストレーターの絵はほのぼのとして優しく、子供たちにとっても思いを寄せて描かれているなどいつも思います。ぜひ手にとってみてください。こちらは 1 個につき 100 円の募金をお願いしております。子供たちにも大人気で、デザインを選ぶ目はとても楽しそうです。

缶バッジ募金活動は、賛同していただいた団体、店舗の皆様に届け、お声かけをお願いしたり、またイベントやお祭りの際にも出向きまして、募金の呼びかけをしております。コツコツと活動してはいましたが、もっと何か広がるような活動はできないだろうかを探していた折に巡り会ったのが、新聞紙でバッグをつくるという目からうろこのような出会いでした。

3.11 から急に連絡を取り出した方も多いと思います。私もその一人です。SNS を登録しただけで全く使っていなかったのですが、今や頻繁に活用しています。ここで 30 年ぶりに再開した関東方面在住の友人と近況や地震情報のやりとり、もう生存確認のような日々でした。この友人の友人が新聞バッグづくりを始めるという投稿を見つけまして、心が躍りました。これなら取り組めるかも。

早速紹介していただき、2011 年 12 月には裾野市でワークショップを開催。楽しい、うまくつくれるようになりたい、寝不足になりながら、新聞紙と格闘しました。私たちも販売できるレベルになって、募金活動拡張を目指そうと目標が決まりましたので、とはいえ簡単には上手につくれず、何度も師匠に復習をお願いし、相談もしました。師匠のバッグづ

くり以外のお話もまた勉強になっていました。

その師匠は福島県大熊町の出身の方だったんです。もう師匠はおうちには帰れなくなりました。当事者の方にしか知り得ない事柄も多く、辛い、でも乗り越えていかななくてはと、その心持ちに尊敬しかありません。他人事ではない、いつ、どこでも激変があるかも。今できることは向き合おう。

取り組み始めて昨年3月までに130万6,303円を募金できました。皆様のおかげです。ありがとうございました。

また、材料紙面の御提供をいただいております皆様に心より感謝しております。これからもどうぞよろしく願い申し上げます。

今後の目標は新聞紙バッグで世界の方々におもしろさと想う気持ちを運ぶことです。そして具体的な夢としては、静岡空港の売店にこれが置かれたら、とっとうれしいなと思います。

本日は誠にありがとうございました。

#### 【発言者2】

ロボット・アーティストの発言者2と申します。

1974年からアクリルロボットという透明のロボットをつくっておまして、つくり始めたのが20代、当時私イラストレーターだったんですけれども、時間があつたということで、1年半後には150台つくっていたんですね。

それでNHKの教育テレビの番組に手紙を出したら出演が決まりまして出していただいて、その後本がNHK出版から出まして、「日本初ロボット工作本」と最近は言われているんです。この後3冊出たんですけれども、これに影響された工作少年とか、それからクリエイターがとて多かつたというのをごく最近インターネット時代になって、いろんな方から連絡いただいて知ったことで、本当に長くやっているおかげだなと思っています。

今『ロボコンマガジン』というのでロボットの工作を連載しています。今現在の活動としては、タミヤロボクラフトシリーズ、27種類出ていまして、これはどこでも買えます。海外の方が数が多いと思いますけれども、海外と国内と両方で相当数が出ています。

さらに、私としてはもうちょっと進んだものをつくりたくて、電子回路を持った小型ロボットというのがコンセプトなんですけれども、それがなかなか静岡のホビーマーカーで商品化ができなくて、スケールモデルのプラモデルがメインの業界なので、ロボットというのは新しいジャンルでして難しいということだったんですが、メーカーさんと話し合い

をして、ほかのメーカーさんに売り込んでもらって、それで去年出たのが、赤外線ロボットなんですけれども、これが大阪にベンチャー事業で2000年に立ち上げた会社なんですけれど、この会社の社長さんと取締役の方が我が家に来てくださったんですけれども、会ってみたら中学生時代に私の本を見てロボットをつくり、ロボット研究者になって会社をつくったという人たちだったんですね。大変うれしいことです。

この赤外線サッカーロボットは、そういう方々が商品化してくださったので、私の顔写真がパッケージに載っていたりしまして、これをきっかけに新聞社の方に取材していただいて、その記事を見て地域の方々が声をかけてくださって、それで去年、一昨年あたりからこの地域でのワークショップをやる機会が増えています。

実は去年、こちらの学習センターでも裾野市の子供たちを対象にやらせていただいたんですけれども、とても反応がよくて、楽しいワークショップになりました。

今、私が取り組んでいるのは、超小型で電子回路を持ったロボットというのを開発しています。

今の夢としては、ロボットというと、何が一番皆さんにわかってもらいやすいかな。いろいろジャンルがあるから、二足歩行とどう違うんですかとかという質問されることがあるんですけれども、二足歩行のキットというのは10万円ぐらいするんですね。ホンダのアシモは、あれ1回のレンタル費用2,000万と言われていています。

今ロボット技術者の間では、2020年の東京オリンピックでアシモが最終聖火ランナーで出てくるんじゃないかというそういう期待をしまして、アシモはそのために進化しているんじゃないかという話があります。というのは、初めはアシモは歩くだけだったんですけれども、最近は走れるんですよ。だったら聖火を持って走ることができるんじゃないかと。

そのあたりからロボットブームが来るんじゃないかと私は予感してまして、簡単なロボットで、今ひとつおもしろいものというのはそれほど出てないんです。この辺のジャンルを世に出して、これからの日本の未来を担う若者たちにわくわく感を感じてもらって、未来の技術者を育てたい。

この会社と一緒に仕事をしたときに、今の40代から50代前半ぐらいのロボット研究者の大半は、私の本の影響を受けていますよと言ってもらっていて、長くやってきたそれがそういう影響力を持っていたんだというのが喜びです。これから未来を担う子供たちにも、そういうわくわく感を届けたいというのが私の願いです。

## 【川勝知事】

ただただ感心して、やっぱり富士山の麓はこういうクリエイターといいますか、アーティストといいたいでしょうか、が生まれるそういう風土性があるんでしょうかね。

新聞紙バッグは半永久的といいますか、使っている限りはその記事を何度も何度も読むことができるので、例えば発言者2さんが静岡新聞に記事が載ったと。その記事は静岡新聞は70万部刷っていますからね。裾野だけで5万人以上の人口がいるでしょう。そのうち3分の1ぐらいがとっておられるとしても、2万人弱の方たちの新聞があるわけですよ。それをここに使われると、発言者2さんの宣伝になるということにもなりますね。

ですからずっと使えるということで、この古新聞の、あるいは古新聞だけでなく、県庁の広報紙であるとか、あるいは恐らくほかの材料も有効活用して、しかも御立派なことは、この裾野市と相馬市とが友好関係にあって、そこでさっき就学前が4人、小学生が9人、中学生が14人、卒業生と全部で44人でしたね、その子供たちが孤児になっていると。その子供たちのためにこれの販売の代金を寄附されているということで、誠に志が立派で、しかも技をだんだん上げていっしょというところで、これはどんなふうに変化するのかというふうに思ったくらいでございます。これはもう本当に新しい発見でございました。お仲間もいっしょなようですので、これを空港に置くかは、またお話いたしまして、いずれにしても非常にしっかりしているもので、会場の皆様もお持ち帰りいただいて、使い勝手を試してみてください。

発言者2さんはびっくりしました。プラモデルではなくてロボット、イラストレーターとして芽が出なかったというふうにおっしゃっていましたが、やっぱり何かあるんですよ。一芸に秀でているんですね。ですからイラストレーターの経歴抜きには私はこうしたものがなかったんじゃないかと思えますけれども。

さっき裾野市長さんともお話ししたんですけれども、こちらはすぐ東京から箱根を越えたら、こんなにすばらしい景色のところ、桃源郷ですよ、に出られると。さっき一緒に食事していたら、楽風というところのお弁当、あれがまたうまい。全部地産のものを使っておられると。こういうところは天国ですね。

ですから、こういうところにどういうまちをつくるかというデザイン、いわゆる都市デザインとか景観デザインとかといいますか、そうしたものを学生に頼むと実質無料なんです。ただ表彰状を差し上げないといけません。

東京にデザインを頼むと何百万とか、場合によっては法外な値段を要求されます。し

かし若者が来ますので、そうすると自分の夢をここで描くんですね。そうするとそれがやっぱり景色がもう圧倒的に素晴らしいので、想像力がかきたてられて、こういう発言者1さんとか発言者2さんのようなこういう人が生まれてくるという意味で、この場所の力というのをお二人の話から感じましたし、何ととっても2020年のオリンピックで最終の聖火ランナーが、何と日本のロボット君になるというそこまで見ている人はなかなかいないんじゃないでしょうか。

聞いていると何となく本当に聞こえますから、ですからまずイメージーションで想像して、本当にクリエイションで創造するというこういうお二人はそれぞれ人のために、また志を見事に、世界の発言者2になって今いきつつあるということもわかりまして、ぜひこれから若い青年たちの御指導をよろしく願いまして、こういう第二、第三の発言者2さんのような方が生まれることを期待したいと存じました。ありがとうございました。勉強になりました。

### 【発言者3】

こんにちは。機能訓練型デイサービスを運営させていただいております発言者3と申します。限りある時間で一生懸命お伝えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

私は知事と同じ京都出身です。父親が自動車関係の仕事をしている関係で、高校3年生で愛知県の三好町、今は三好市に越しました。私も高校卒業後間もなく自動車関係の会社へ就職し、OL時代を過ごし、結婚を機にこの美しい裾野市に移り住みました。子育てと仕事の両立をしていましたが、忙しさから体の調子がどうもすぐれなかったときにヨガと出会いました。そのおかげでヨガのすばらしさをもっと知ってもらいたいとヨガのインストラクターになりました。

しかし、先生を頑張ろうとすればするほど辛くなってきました。育児との両立、夜にレッスンを組むことができない。子供が熱を出したらどうしよう。お母さんはお母さんとして輝くことしかできないのか。社会に貢献することができないのか。心がだらだらする日々が続きました。

あるとき、考えながらふと気づきました。できない理由ばかり考えていたこと、できない理由を考えるよりも、できることを考えよう。目の前が開かれた気持ちでした。できることを考えました。それがデイサービスという事業でした。時間は日中、ヨガの理論や呼吸法、考え方を取り入れた体操、これならできる。そして今の会社が生まれました。

満5歳を迎えましたが、現在は裾野市に2施設、三島市に2施設、整体、体操、個別訓練を中心に、半日または1日でサービスを提供しています。いつも笑顔と元気でお迎えし、帰りは徹底して車が見えなくなるまでお見送りをします。「いつも元気で、みんなが楽しそうで、すがすがしい気持ちいいわ」と言ってもらえることがとてもうれしいです。これは社員の自慢です。

そして人生の時間をいただいた私たちは本気で夢や目標と一緒に向かう。喜び合い、笑い合い、信頼を深めながら本気で利用者様に向かっていきます。スタッフは介護福祉士、運動健康指導士、理学療法士、柔道整復師、看護師、スポーツインストラクターなど、得意分野を備えた仲間が集まっています。

女性社員が多く、もちろんイケメン男性社員もおりますが、そのうち60%が子育て、または主婦と両立をしています。

女性が輝き、働きがいを持てるような会社にしたい。自分が子育てをしながら仕事をし、いく生きがいを体験しているからこそ、今言えることです。

子育て中や主婦と両立をしているかあちゃんのパワーはすごいです。なぜか。それは子供のために、家族のために、仕事をしているからです。要は自分のために何かをしているときより、だれかのために何かをなしていくことの方が、はるかにエネルギーが出るんです。

現在はデイサービスのほかに介護予防事業として月2回、施設にてiPad教室を開催していますが、地域、細かく言うと歩いてこれる距離で、公民館などで体操教室を開くことができるように、今準備を進めています。現在は富士見台のサロンに月に1回出向かせていただき、体操教室をさせていただいています。ヨガやノルディック、体力測定など、定期的に集まり、運動できる場所を今後も派生させていけたらと思っています。

あと1つ、ふつふつと密かに熱く温めている夢があります。それは足です。高齢者が不自由なくどこでも行けるバスをつくることです。公共交通機関の普及が進んでいるのは進んでいるんですが、まだまだ車社会だなと思います。でも車やバスが必要な人は、これからたくさん増えていく。

なぜ家から出なくなるのか。たくさんのおじいちゃんやおばあちゃんに話を聞いてみました。バス停まで遠い、駅まで出るのが、お嫁さんには意外と頼みにくいよとか、タクシーは高いし、しかしもっと深く聞くと、洋服を買いに行きたい、百貨店に行きたい、病院にもう少し通いやすくなればなど、今の私たちと外に出たいという気持ちは何も変わりま

せんでした。

環境が整っていないならやろうと、デイサービスがお休みのときにスタッフは率先して考え、年に数回ですが、お出かけ会をしています。イチゴ狩り、フラワーパークツアー、お買い物ツアー、喫茶店に行くツアーなどです。うれしそうに、「何十年ぶりかしら、喫茶店でサンドイッチ食べたの」とか、いつも疲れて歩けないとおっしゃる方がさくさく、さくさく歩いたりします。

また年に1回、全施設集まって夏祭りとクリスマス会を開催しています。お化粧してきたり、素敵な洋服を着て、いつもありがとうとか、楽しかったよと、心躍らせてお帰りになる姿を見させていただけると、心がわくわくするということは本当に大切だなと教わります。だからこそ何かお役に立ちたいと思ってしまうのです。

毎回思うこと、それはバスがあったら、自分の未熟さに苛立ちさえ覚えます。どうすれば使いやすいバスができるのか。考えることにわくわくしながら、常に思っています。これもやっぱりできない理由を探すのではなく、できる理由を考える。

もしバスの運営に携わらせていただくチャンスがあるなら、もつと身近に使えるように、だれかの手を借りずに出かけられた。今まで行けなかったこんな場所に行けた。高齢者のQOLを上げていくために支援が絶対できると思っています。

ちなみに私たちが考えるQOLとは、生活の質ととらえていません。その方の人生の質が上がるように考えています。なぜか。何かできなかったことができるようになる。できるようになればこんなことをしてみたい、あんなことをしてみたい、これはもう生活の質を支援しているレベルではない。あんなことをしてみたい。この世の中に生きていてよかった、人生最高だったという思いを増やしていくために、私たちは本気で取り組んでいるからです。

だからいっぱい失敗しても、顔をぐちゃぐちゃにしながら、汗かきながら、1つ1つがむしゃらに進んでいる一生懸命な仲間をととても格好いいと思います。これからも日本一笑顔と元気あふれるデイサービス、働いてくれているみんながきらきら輝いて働きがいのある会社づくり、そして幸せなまちづくりを小さな会社ですが夢は大きく、夢を実現するために一步一步取り組んでいきたいなと思っています。

もし今日聞いてくださっている方の中にも、こんなのあるよとか、こんな手伝い私できるよとか、こんなの一緒にやりませんかという声があれば、ぜひお力を貸していただけたらなと思います。

最後になりましたが、私の昔話から今日までのことを聞いてくださり、ありがとうございます。今回の出会いに一期一会、感謝いたしまして終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

#### 【発言者4】

皆さん、こんにちは。今日は「平太さんと語ろう」ということで発言者としてこの場に立たせていただきましたこと、本当に光栄に思っております。私は裾野市に住んでおります発言者4と申します。どうぞよろしく願いいたします。

私は子育て支援のための団体の代表として、誕生学アドバイザーとして日々活動しております。私がどうしてこのような仕事を始めたのか、そしてどのような活動をしているかということをお話したいと思えます。

私は上の子が生まれて2か月のときに、このまま主婦で終わりたくない、社会と関わっていたい、家庭にどっぷり浸かっていたくないという気持ちが強くなりました。2か月の娘を母に預け、サロンを開くために勉強に通いました。翌年お店をオープン、仕事を始めましたけれども、やはり子育てと仕事の両立というのはすごく大変でした。

いつしか自分も疲れてしまい、私も癒やされたいなとすごく思いました。そんなときに出会えたのがハワイアン・ロミロミといいまして、ハワイの伝統的なオイルマッサージなんです。それを自分が受ける機会があったので、それを受けました。そしたらそれがすごく気持ちよくて、「わっ、こんな気持ちいいんだったら、子育て中のママ、疲れているママをこれで癒してあげたいな」と思って、すぐに資格を取りに行きました。

ハワイアン・ロミロミはオイルを使いますので、いろんなオイルを探しました。そこで出会ったのが今使っているオイルなんですけれども、それを業者の方に「これを取り扱いたいんですけど」と言いましたら、「ぜひ使ってください、これはベビーマッサージに使っていますので、すごく安全で安心ですよ」ということを言われたんですね。

私今年23歳になる娘がいるんですけれども、23年前、ベビーマッサージって聞いたことがなかったんです。「ベビーマッサージって何ですか」って聞いたら、赤ちゃんに触れるだけで、赤ちゃんの情緒が安定したり、便秘が改善されたり、眠りが深くなったり、運動能力がアップしたり、免疫力がアップするんだよということをお聞かせいただきました。

トップアスリートと言われているイチロー選手や浅田真央選手、その方たちには共通する環境があったそうです。それは育った環境があったんですけれども、それは毎日足の裏をマッサージしてもらったということなんですね。世界ではさらにもうこの天才をつくる

英才教育の中にこの足裏マッサージというのが含まれているそうなんです。私はそれを聞いて、そのときにはもう娘が中学生、思春期で反抗期でこれをもし知っていたら子育てが違ったんじゃないかって思いました。

そこでまた私の悪い癖で、これちょっと勉強しなくちゃと思って、また勉強を始めました。そして2007年に子育て支援のための団体を立ち上げて、裾野市を中心に産婦人科などでベビーマッサージ、約1,000組以上の親子にこのベビーマッサージを伝えてきました。

また子育て中のお母さんたちが孤立しないように居場所づくりをしたりとか、賢いママになるための勉強会を開いたりしています。本当にこんなにすばらしいものなので、裾野市に生まれた子には全員知ってもらいたいし、体験してもらいたいなというふうに思っています。ぜひ乳幼児健診でこれができたらいいんじゃないかなっていうふうに思っています。

そして子供が成長していく中で性教育ですね。性教育をどうやって子供に伝えていったらいいんだろうということを悩みました。昔に比べて性交開始年齢というのは低年齢化しています。低年齢化していることによってさまざまな問題が生じてきています。予期せぬ妊娠だったり、性感染症だったり、高校生の子が子供を妊娠するまで気づかず、お風呂で出産して遺棄してしまったという悲しい事件がありました。

そして性感染症も、そのまま放っておいたりすると、その子供たちがいつか家族が欲しいなと思ったときに、子供がなかなか授かりにくいという現状もあるんですね。やはりこういうことを防ぐには、どう子供たちに伝えたらいいんだろうというときに誕生学に出会いました。

誕生学は、予期せぬ妊娠だったり、性感染症を恐れさせるだけではなくて、誕生学は「生まれてきたことがうれしくなると未来が楽しくなる」をコンセプトに、大人にも子供にもお母さんのお腹の中でどんなふうに成長して生まれてきたのか、自分自身の産まれてくる力を伝えて、産み生まれる力を再確認することで自尊感情を育むことを目的としているんですね。そして命の大切さや、命をつなげる尊さを感じることによって、いじめや青少年の自殺予防、親子の愛着形成不全を防止し、次世代育成支援を目的としています。

現在日本では1週間に250人の赤ちゃんが10代の女の子から生まれているんです。そして20代の女性の死亡原因の第1位は自殺なんですね。子供は未来の大人たちです。未来の母は今の女の子たちなんです。そんな子供たちの未来に、「しまった」ではなくて、「よかった」で始める妊娠を迎えられるためにも、10代の子供たち、10代からの体のことに関心を持って、自分自身で自分の体を守っていく力をつけていく。15年後、2030年に親になる

世代の今の子供たちを守り導くことが誕生学では大切だということを考えています。

この大切な命の話、誕生学を幼稚園から大学生の子供たちに、その年代にあわせて、わかりやすく、正しく、ロマンチックに伝えています。次の時代の子供たちが幸せになって、心豊かに、だれもが「産まれてきてよかった」と思える裾野市に、静岡県になるように、そのためにも静岡県の全学校でこの誕生学を子供たちに届けたいということが私の夢です。今現在静岡県には10名の誕生学アドバイザーがいます。ぜひ私たちを活用していただいて、学校の子供たちに届けていきたいと思えます。以上です。ありがとうございました。

#### 【川勝知事】

今度は全く話の違うことでございましたけれども、父上がこちらで自動車会社の仕事に入られて、そういう環境で育てられたというのが、恐らく最後のバスのことにつながっているんじゃないかと。ですから恐らくお父上は発言者3さんにとってとってもいい親だったのではないかとこのように思います。

そして我々も学ぶべきことがあります。これはできない理由をあげつらうのではなくて、何ができるかというこれを考えると。全然考え方が違いますね。私は全然違う世界から立派な役人さんがいらっしゃるところに入ったんですけども、優秀な人も先例がないという事はやらない理由になるわけですね。やらない理由、あるいはやれない理由というのは、幾らでも考えられるんですよ。

それであるとき気がつきまして、私はそれ聞きたくない、市民なり県民の方たちがこういうことしてほしいと言われていて。それはうちの部局ではありません。先例はありません。こういうことはしたがってできませんというようなことで、もっともなんですね、それとしては。だったらそれはもう聞かない。じゃどうしたらやれるかという方法だけ考えてくれと。失敗したときに責任は私が持つから、だからやれる方法しか言わないでほしいということで、今そういうムードに変わってきつつあります。

6,000人もいらっしゃるので全員というわけになかなかいかないと思えますけれども、できない理由ではなくてどうしたらやれるか、これを考えるという、これは極めて大切な組織における、あるいは組織を担う人たちが、それでもう180度人生が変わるくらい、結局自分中心になるか、人のために役に立つ人になるか、そういう大きな違いになるかと思えますが、そういうできない理由を考えるのはやめるというこの姿勢が一貫しているのは、今のこういう恐らく富士山を見てみると、1合目、2合目、3合目と上がっていかれるんでしょうね。

ヨガの話をされたので、皆ヨガの専門家と思ったら、いろんな人がいらっしゃるということなんですね。ですからそれぞれデイサービスで必要に応じてそれぞれの持っている技術をデイサービスに来られる方々のために生かされているということで見上げたものですよ。

そして今、静岡県健康寿命は日本一です、あるいは世界一ですね。世界で最も健康寿命が長い、すなわち高齢になっても日常生活に支障を来さない年齢のことを健康寿命といいますが、この健康寿命が世界で最も高いのが日本です。日本の中で最も高いのが実は静岡県です。この間、平成25年度分の数字で山梨県が抜いた、うちが全部2位になった。しかしこれまでの数字を平均するとうちがダントツでトップです。

それは非常に自慢すべきことで、45歳ぐらいまでは青年なんですよ。健康寿命までが壮年なんですよ。健康寿命は75点幾つですから、76歳までが壮年なんですよ。77歳からは老年の仲間入りをするということになるんですが、一番弱るのが足だということで、その足を自ら助けること。そして御高齢の方々も実際は外に出たいというふうに思っているんですよ。

実は健康寿命を延ばすのは外に出て、つまり引っ込み思案にならないで外に出て、何だかんだの社会とのつながりを持ち続けること、それから先ほどのような運動ですね、ヨガを含めてですけれども、そういう運動をする。それからすばらしい食事を、旬のものをいただいて、食材に気をつける。この3つ。食材と、軽い運動の継続と、そして社会参加なんです。

これで我々はいわゆるコンフォート調査というのをやっていたんですよ。そうするとそのやってない人に対して、3つのうち3つやっている人が一番長生きしているんです、健康で。それでこういうことをやっているのが日本のモデルになるということで厚生労働大臣賞をもらったんですよ、静岡県は。もらうためにやったんじゃないで、結果的に何で健康寿命が長いんですか、これをやっている人たちが長いということ、あっこれですねということで、ですからそこに社会参加を差し上げて、そして外に出てこられるようにすると。

そしてデイサービスに来られている方たちにはこういう運動をして、元気をつけていくという、そういう真ん中の間に立つ人がいますので、ぜひ中身のわかっている発言者3さんみたいな人を助けていくことが健康寿命をさらに延ばしていくことになるんじゃないかというふうに思いましたね。京都の誇りです。今や裾野の誇りということで、うれしいですよ。

発言者4さんはさらにすごいですね。御自身の経験からだんだん、だんだんと、最初はハワイアンロミロミですか、ともかく気持ちのよくなるような、それがベビーマッサージへの出会いにつながったと。これがやっぱり何か1,000組以上やったというんですから、すごいですよね。人の役に立つと思ったらそれをやると。

そして今は誕生学という、実は誕生学を僕知らなかったです。今日まで知らなかったです。こういう産まれてきたことを誇りに思う、喜びに思うと、そういう子供の自尊心、自己を肯定する、そういう力を植え付けるということのために必要な学問として、あるいは実践の学問として誕生学があると。

今は静岡県に10人いらっしゃるそうですね。二桁であるということで、いかにこれを三桁にするかということですね。これは全く今の教育の中身のカリキュラムに入っていないんじゃないでしょうか。

ところが生涯学習センター、最初に案内されたところは、2階の森のカフェでした。つまり勉強塾なんですね、先生の先生がやっていたら。そこにこういう人が入ったらいいんじゃないですかね。

だからもう一番大切なことは、人間がまともに立派になる、その道はいろんな道があると思うんですよ。文科省が定めている道も、富士山に登るように、その道の1つだと思えます。ですから、ほかにも立派になる道が僕は幾つでもあると思うんですね。女性と男性ではまたそれぞれふさわしい道もあると思います。ひょっとすると誕生学などは、こういう発言者4さんのような方に教えていただく方が、子供にとっては素直に入るかもしれません。

そういういろいろな自分の得意に応じた形で、小さな子供たち、あるいは思春期の子供たちに自己肯定感を持って、不幸にも自殺をして、その人を愛している人を悲しめると、必ず愛している人はいるんですね。そのことを思わないで、自分が阻害されていると思ったり、自分が思っているより実は愛されているわけですが、それをなかなかわからないと。自己肯定感を持ってないというそこが不幸な自殺に結びついているということがある程度わかっているわけですが、やっぱりこれは原因がわかっている以上、一番の根本のお腹の中にいるときから胎教というふうに言われていたものが発展すると誕生学みたいになるんじゃないかなという気がしますけれども、これは新しい実践学なので、恐らく産婦人科の先生などが中心になられて、そういうカリキュラムをつくられているんだと思いますが、だれかがやらなくちゃならぬということであるとすれば、できない理由を挙げるのではなく

て、それこそどうしたらできるかということで、まずは裾野がそういうセンターになっていくというのがいいんじゃないでしょうか。

そうすると文字どおり、赤ちゃんのときから発言者3さんがなさっておられるように高齢者まで、全部提携ができると。恐らくこういう雰囲気があるから、一気に裾野が長泉に追いついたんじゃないかと。間もなく2.07ですよ、これ。だから2.07というのが日本全体の目標です。安倍さんは1.80と言っているでしょう、合計特殊出生率、もう達成しているんじゃないですか、ここは。だから日本の既にモデルです。

そうなんです。私は「安倍さん、あなた何言っているんだ、うちはもう1.82がある」ということで2.07、それは大体若い青年たちがもしパートナーに出会って、家庭を築くことができれば、子供は2~3人欲しいと言っているからなんです。だから2~3人というところで、一番数字として人口が全然減らない合計特殊出生率の数字というのは2.07人と。一生の間に2人ちょっとのお子様に恵まれれば、人口のピラミッドが非常に正常になるということなわけです。それをどこかがやらないといけない。

そんなことで実は興味本位じゃなくて、何か秘密があるというふうに裾野と長泉には何か人が幸せになれる風土性があるんじゃないかと思っておりましたけれども、今日はその一端をこのお二人の女性から承ったという気がした次第でございます。ありがとうございます。

#### 【発言者5】

皆様、改めましてこんにちは。裾野市市民協働によるまちづくり推進協議会の発言者5と申します。よろしく申し上げます。

長いので略して協議会と言いますけれども、この協議会は裾野市市民協働によるまちづくり推進計画というのがありまして、それに基づいて平成22年4月に発足しました。市長の委嘱を受けた市民団体、企業、関係機関などの代表、有識者、一般市民、これは公募ですけれども、あとは市の職員が委員を務めております。現在は市民11人、市の職員が9人で構成されていまして、任期は2年間、平成27年、28年ということで、今ちょうど真ん中辺あたりになっております。

主な任務は市民協働の普及・進展につながる事業計画等の協議、あとは検討ですね。あとは市のパートナーシップ事業、これは皆さんでおわかりいただけるのは、最近ウグイスカードというのがあると思いますけれども、あれなんかも協議会で審査をしてゴーサインが出て実行されております。ほかにも地域ネコの問題とか、デイケアセンターに歌の楽し

みを届けようという団体が、このパートナーシップに申請してきまして、どんどん頑張ってくださいということで、いろんな活動を送り出しているということになります。

あとは平成25年度からは市民協働によるまちづくり推進のための方向性の模索や、地域コミュニティの活性化に意欲のある市民、その市民同士のマッチング、活発に意見が出し合える楽しい会議の実践、普及にも取り組んでおります。

私たちは今協議会の中で、どういうふうに協働というのをとらえて進んでいこうかなというのをいろいろ話し合っておるんですけども、皆さん協働って、字のごとくなんですけれども、意味ってわかりますか。私ども協働の推進協議会なんですけれども、正直よくわからないんですよ。だけど、最近22年から始まって、ほぼ6年ぐらいたっているんですけども、要するに協働というのは、とにかく市民と行政が一緒になって、みんなで考えて、よく話し合うことと、とにかく話し合うこと、どうもそこら辺が一番の肝なのかなということにたどり着いております。

それで、話し合いするといっても、どう話し合うんだと、いろいろノウハウはあるんですけども、それを協議会でどういうふうに話し合いという形を持っていけばいいのかな、どういうふうな場をつくれればいいのかということは今いろいろと仕掛けを考えている中でございます。

私、裾野市民で、今日お越しの皆様は裾野市民の方が結構多いと思いますんですけども、裾野市って好きですか。はい、ありがとうございます。好きですよ。何というんですか、住めば都と言いますが、裾野いいですよ。結構東京にも近いですし、さっきからお話が出ていますけれども、水もうまいですし、水がうまいと、そこで採れる野菜もおいしいですし、米もおいしいですし、お酒もおいしいですし、今実は読んでいる『静岡ルール』という本があるんですけども、詳細は本からの受け売りなので伝えられないんですけども、あるアンケートで「静岡に住んでいてよかったですか」というアンケートに対して、9割の人が「静岡大好きです」というようなそういう答えが返ってきていて、それが全国で3位に当たるそうです。だから裾野に限らないんですけども、静岡ってやっぱりいいんですよ。住みやすいというんですかね。

富士山なんか、富士山は静岡県人は登るものよりも見るものというふうに考えているそうですね。特に裾野なんて、この辺なんてよく富士山見えますので、毎日拝んでいますよね。「いやあ、今日の富士山いいなあ」なんて言って、何かすがすがしい気持ちになるわけなんですけれども、その本には、「静岡には特上の日常茶飯事が散らばっている」という

んですよ。

よく、皆さんはどうかわかりませんが、旅行とか行って、それなりに楽しんできますけれども、我が家に帰ってきて、ああ、疲れたな、やっぱり家が一番いいやってお茶を飲んで、いやあ、やっぱりうちの裾野のお茶が一番うめえなというような、そんなような安堵感というか、そんなのが皆さんもあるんじゃないかなと思うんですけども、当たり前にも魚も駿河湾の魚がいっぱいありますし、さっきも言いました水もうまいですし、富士山きれいですし、空気きれいだし、米もうまいし、お酒もうまい。とにかくありとあらゆるものが普通に満たされるというか、普通においしいんですよって皆さん思いませんか。

だから、何かこういろんな東北の寒い地方とかのようなスティックのような生活を強いられることもないし、暖かくてのんびりでということで、特に東部ですね。東中西って静岡ありますけれども、それぞれにキャラがありますよね。東部、中部、西部ですけど、ここ東部はその本には頑固者で保守的だというふうに書いてあるんですよ。何か皆さん思いませんか？自分で読んでみて、確かにそうかななんて思って、よそ者を受け入れないですよ。

ところが仲良くなって、ちょっと心開くとざあっと入っていっちゃって、おまえ、いいやつだなと言って、結構仲良くなれるんですよ。だから根はいい人なんです、私も含めて。非常にいい人たちなんです。で、東京とかあっちの方と愛知とか関西、大阪の方、かなり違います。だから西部に行くと、ちょっとその関西風の、がめついとすると失礼ですが、やるぞというふうな意識が強い。東部は、まあいいかなというような、まあいいじゃん、今穏やかし、そんなに困ってないんじゃないのというふうな、そういう雰囲気があるんですよ。それはしょうがないです、そういうところだから、ここは。

だけど、結局そういう何となく過ごしていたという時期はやっぱり終わったんですよ。人口もどんどん減っていますし、先ほど知事が 75 歳まで壮年と、実際裾野市に 75 歳近辺の人がたくさんいるんですよ。何かパワーがあり余っているんですよ。その人たちって、すごいいろんな技とか特技というかな、仕事で培ったものを含めて、絶対いろんなノウハウを持っているんですよ。だからそういう方たちって放っておいちゃもったいないですよ。

そんなことがありまして、とにかく裾野市ものんびり、いい人たちなんです。いい人たちなんですけれども、こののんびり感というのは少し見直して、やっぱり今とにかく気象もおかしいですよ、寒かったり暑かったり、極端ですよ。だからとにかく災害時の対

応、あとは伝統文化の継承、子育ての問題、子供間にも問題がありますよね。一人暮らしの世帯、高齢者への対応、さっき言いました退職者の生き方探しなんていうのも、本当に大きな課題だと思っています。そんなのが当然のごとく裾野市にもいっぱいあります。

じゃ私たちこの協議会で、この協議会のメンバー皆さんそうですけれども、やっぱりどうせ住むんだったら楽しい暮らし方をしたいですし、誇りを持って、裾野っていいな、大好きだなというような、こういう思いってやっぱり持って過ごしたいじゃないですかね。それはやっぱりまちづくりの原動力、一番のベースだと思うんです。

じゃそういうまちづくりをやってもいいけど、だれを対象にやっていくのかというと、やっぱり住んでいる皆さんなんですよ。皆さんのモチベーションとか心持ちというのをちょっとくすぐるといふか、変えていくという方法をとっていかないと盛り上がっていかないというわけなんです。

この協議会で最近力を入れているのは、行政と区、自治会も含めて、そこら辺にすごくピンポイントにターゲットを絞って、とにかく従来の行政から自治会でいいますと、補助金が出るからこうやってやってよとか、何か依頼するとか、とにかく各種いろんな委員さんを出してきてくださいよとか、そういうお願い的なものですね、依頼。区から行政というのは、それこそ要望とか陳情とか、言われたから、補助金がついたからやらないとしようがねえよなどと言ってやる的な、そうなっているような従来の関係があると思うんです。

私も前に自主防災活動やったんですけれども、前例は3年ぐらいやっているんですね、すみません、1年だったらいいですよみたいな感じで受けたことがあります。だからこうやって言っているのはおこがましいですけども、とにかく続けてやらないと、その中身ってよくわからないですよ。

だから、今実際にちょうど年度替わりで、役員さんが切り替わる時に、「1年だけだからさ、いいじゃん、いいじゃん、前と同じでいいから、前の資料持ってきたからさ」って言いながら、そうやって掛け言葉で、皆さん、あっそうそうとわかると思うんですけども、こういう関係を続けていると、そもそも地域が持っているいろんな問題に絶対対処できませんよね。

もう年は皆さん高齢化してとっていきますし、人口が減り始めちゃっているというような状況で、とにかく地域でも押しつけ的にやらされているような、そんなことでは絶対魅力は生まれませんよね。人も集まってきました。何かしたいなという、成し遂げようする心意気、志なんていうのは絶対生まれませんね。とりあえず言われたからやるよとか、前

に去年やっているからしようがない、やるよ、面倒くさいけど、みたいなことだと、本来何のためにやっているのかというのが、絶対何のためにやっているかという形になっちゃうので、やっぱりこれひとつまずいよなというふうに皆さんも思っていると思うんですけども、協議会でも本当にまずいと思っています。

じゃどうするかというと、さっき協働の意味のときに言いましたけれども、話し合いの場づくりというのが絶対的に必要なんです。これ10回でも20回でもいいと思っています。ただ、どうしてもいろんな行政の方の側から言いますと、時間がないからとか、あと2回しかできませんからとか、どうしても回数とか時間制限が出てきちゃうんですが、本腰入れて、本当の意味で皆さんが集まって、本当に生の声を吸い上げるのであれば、20回、30回、40回、何十回も地域で、例えば区長さん、自治会長さん集まって、自分たちの地区ってどんな問題があるんだということを真剣に話し合うんですよね。そういう場が絶対的に必要なんです。

そういう皆さん、小学生でもいいんですよね。小学生から90代のおじいちゃん、おばあちゃんでもいいんですよね、100歳でもいいですけども、とにかくありとあらゆるいろんな職種の方、いろんな世代の方がいっぱい集まって話し合うことで、絶対新たな気づきが生まれて、相手の思いとか顔がやっぱりわかりますので、考え方もわかって、そこで温かいつながりというのが生まれてきて、やっぱり地域というのはそれで結束力が固まってくるということがやっぱりあると思うんです。

絶対に答えは役所が決めるんじゃないですよ。行政の方が決めるんじゃなくて、自分たちの地域は自分たちで住んでいるので、自分たちしかわからないですよ。よその地域はよその地域で問題がありますけれども、ここの地域は自分が住んでいるところは自分が住んでいるなりの絶対問題があるわけです。

その問題といっても、守りたいものがあるでしょう、大切にしたいものもあるでしょう。苦勞しているんだけど、何とか工夫してやっているよというようなこともあるでしょう。とにかくそういうものを目に見える形でというか、話をして気づくということが絶対必要だと思うんです。当たり前で何となくきていますけれども、改めて立ち止まってあえて見つめ直す、何となく過ごしてきた生活の中にあえて立ち止まって見つめ直すというのが絶対に必要だと思います。

その話し合いをみんなでやるんですよね。一部の役員の人たちだけが集まって決めるんじゃなくて、みんなで話をして、実際どうなのよということを確認しないと新たな展開と

というのは期待できないと思います。

皆さん、人はどういうときに動くのかというのがあるんですけども、とにかく楽しくないと絶対動きませんよね。楽しい、絶対楽しい、笑いが出ないと絶対動きません。身の丈で動くというのがありますよね。これだったらできるかなというのが、話し合いの中で、あっこれだったらうちの地域でできるかな、自分たちでできるかなというそういう身の丈でやれることを探し出すのです。無理に背伸びして、あっちの地域でやっていることをうちでもやってみよう。それは人真似であって、うちの地域はそういうのは別に要らないかもしれないというのは当然ありますので、身の丈というのはやっぱり大切だと思います。

あとは雰囲気。雰囲気というのはすごく大切で、とにかく井戸端会議なんかありますけれども、お菓子を食べても、お茶を飲んでも、とにかくいいじゃないですか。たくわんぼりぼりしながらでも、昔のおじちゃん、おばちゃんたちが近所で集まって、たくわんとか漬け物を持ち寄って、ああだ、こうだとしゃべりながら、その地域のいろんな情報を得るなんていうことも昔やっていましたけれども、そういうくだけたというか、井戸端会議的な雰囲気がないと本音って出てこないと思うんです。

それは地域だけじゃなくて、行政の人も含めて、行政と地域で話すときも同じです。行政は例えば真面目な方が多いと思うんですけども、あとはきっちりした中でやるというのがその使命といいますか、あると思うんですけども、やっぱり生の声、本音を引き出すためには、雰囲気ってすごく大切だと思います。

あとはスキルを学ぶと動きたくなる。何かを得たときに、あっちゃっとこれよそでやっているから使ってみようかなって、ちょっと他で展開してみたくなるというのがあるんですね。だからこういう4つの人はどういうふうに動くのかという心理といいますか、人の特性というか、そんなのも場づくりの中で、皆さんが話し合いをしていくのにすごく重要だと思っております。

協議会は、何となく過ごしてきた裾野市の暖かいのんびりした空気はいいと思うんですけども、あえてちょっと見直しましょうよという刺激、仕掛けを与えながら、とにかく皆さんの中に入り込んでいこうと思っていますので、とにかく皆さんで対話して話し合いをして、とにかく裾野市を盛り上げていくということを皆さん自身で考えて、皆さん自身で、皆さんとともに話し合いをして盛り上げていきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思っています。

【発言者6】

深良の発言者6です。よろしくお願いします。

最後になりまして、ちょっと待ちくたびれたようで、今、発言者5さんの非常に熱意ある熱弁で、私の方はどちらかという堅い話になってしまいますけれども、最後だと思ってゆっくり聞いてください。

まず私たちは平成20年より深良用水を中心とした美しい水と緑保全の会を立ち上げ、水路の清掃と整備、遊休農地の利用による景観植物ですね、菜の花とかヒマワリ、コスモス、あとはサツマイモとか、そういうものを栽培してきましたが、郷土の遺産深良用水を活かしたまちづくりを何かやろうというふうに考えてきました。

そういう経過の中で、深良中学校に赴任されました校長が『いのちの用水』という演劇を平成23年の2月23日にやっておられました。これを契機に何かまちおこしようという話が具体的に出てきました。そして平成25年度の各種団体協や有志が中心となり、深良用水祭り実行委員会を立ち上げ、組織、予算、イベント内容等を何回も打ち合わせを重ね、1年がかりで計画してきました。

そして第1回深良用水祭りを平成26年の4月27日、これは2月25日が1670年に深良用水、隧道が完成して4月25日に通水したと、そういう関係で4月にやろうということになりました。

それで、メインは江戸時代当時の衣装を着ての仮装行列、それと早乙女さんによる田植えとか、ステージイベント、それとあと各地区による模擬店を行いました。仮装行列は約130名、小学生から中学生、それからPTAから老人クラブまで、約130名でやりました。

その当時の衣装は各家庭から出る古着ですね、これを寄贈で行いました。昔の人は非常に丁寧に保管して、行李の中にきれいに畳んであったのがかなり出てきて、それらを利用しました。

そしてあと地元のPTAの若い奥さんと婦人会の方で、14名で衣装を用意してやりましたけれども、緋の着物や赤い腰巻き、これらはないので購入しました。

経費の方は約300万の計画でやりまして、協賛金、それから個人・団体よりの寄附、それから市の行政で行っています地域イベント事業補助金等を使いましてやりました。

そしてさらに追い風として平成26年9月16日に、深良用水が世界かんがい施設遺産に登録され、追い風が吹いてきました。そこでこの1年間に何か形に残るものを残しておこうと、忘れられないうちにやっておこうということで、深良郷土資料館運営委員、町会長、財産区長も入れて、深良用水のハンドブックを3月まで、とにかく今期中に完成させよう

ということで頑張ってくださいまして、そして1万部作成し、これを深良地区の全戸に配付しました。

そして裾野地区の小学校は9校あるんですけれども、これの4年生以上に配付、これは4年生から社会科事業で稲作づくり、これの学習が始まるということで、教育委員会とも話し合いまして配付、それとあと中学校、高校全員に配付し、郷土の遺産深良用水の歴史、恩恵について学習してもらいました。

そして今年度平成27年度は4月26日の日曜日に開催しました。今回、仮装行列のルートは、深良は大字というので、国道を中心にして、北側を天田上、それから下を天田下というふうになっています。第1回目は天田下の方へ行ったんですけれども、今回天田上ということで、御存じの方はいると思いますけれども、東京発電の第3発電所、そこを起点にして深良小学校まで歩きました。

今回は市長には将軍になってもらいました。歩いてもらいたかったんですけれども、ちょっときつそうなのでやめました。ありがとうございました。

それでまたJRのさわやかウォーキングにも前回同様に協力いただき、各地区でもてなしをさせてもらいました。

そしてまた模擬店なんですけれども、今までやったことのない地区もかなりあったんですけれども、やはり女性の力を借りてできるようになり、また地区間での絆が深まりました。ちなみにさわやかウォーキングのJRの発表では、第1回が1,574人、第2回目が1,014人ということで、全体での参加者数は大体4,000人以上というふうになっています。

それであとは問題点とか悩んでいることなんですけれども、深良用水は隧道のため、原則一般人が入れなく、観光としてのアピールが難しく、非常に地味なので、静岡県側の出口の穴口をどのようにしたらPRできるか、いろいろ検討しているんですけれども、非常に悩んでおります。

それから知事をお願いしたいんですけれども、県道仙石原新田線の早期2車線化をお願いしたいんです。沢口まであとわずか1,200mです。毎年、ずっとここ20年ぐらい100mずつぐらいしか工事をやっていません。ちなみに27年度はわずか91mです。このままではあと10年もかかってしまいますので、ぜひあと2、3年で2車線化ができるようお願いしたいと思います。

それからあと、深良もそうなんですけれども、富士山も見えて、水もおいしくて、気候も温暖ということで、とにかく大企業もありまして、住みたい人が多いんですけれども、

現状では住宅を建てられない。それはなぜかという、ずっと言われていますけれども、市街化調整区域の見直しをお願いしたいということです。

それからあと、深良用水が通水 350 年、これがちょうど東京オリンピック 2020 年の年になります。そのときまでに内外の多くの人々が訪問し、全国へ深良用水の情報を発信できる魅力ある深良用水ビジターセンター、記念館が必要ですので、ぜひこれも市長、よろしくをお願いします。先ほどの市民協働との関係もありますので、我々市民も頑張っていきます。

最後に第 3 回、今年の深良用水祭りは 4 月 24 日日曜日に開催します。非常に楽しいお祭りですので、ぜひ多くの皆さんに参加してもらいたいと思います。そして裾野、深良のよさを味わってもらいたいと思います。お願いします。

#### 【川勝知事】

発言者 5 さん、雰囲気いいですね。こういう感じで言われると、皆乗ってくるんじゃないでしょうか。上手に乗せられるというか、上手に引き寄せられるというか、そういういい雰囲気をお持ちの方で。

何といっても話し合いが大切だとおっしゃったわけですが、本当にそう思いますね。情報は一人の人、あるいは本当のひと握りの人しか持ってないと、話し合いをするということは全部情報を共有するということですから、情報のレベルでは同じ位置に立てると、そしてそれぞれが何をできるかということ、できないことも含めて徹底的に理解し合う、そして変えるというこういうわけですね。

そういう意味で、一番古い言い回しでは、「由らしむべし、知らしむべからず」、何も言わなくてよいと、由らしむというか、要するに自分に頼っていけばそれでいいのだ、黙ってついてこいというこういう態度があったわけです。これは全く逆ですね。今地方創生というふうに言われますけれども、地方創生をするときの自立というのは、今のこの発言者 5 さんの言うような態度が一番基礎になると思いますよ。

これは明治の元年に『五箇条の御誓文』というのがありますけれども、5 つの国づくりの原則ですね。「広く会議を興し万機公論に決すべし」、広く協働のような会議を興して、すべてありとあらゆる万機は公の議論、公論でやれと、これですよ。これが今文字どおり協働の推進協議会の中で息づいているという証じゃないでしょうか。

ちなみに第 2 条が、「上下心を一にして盛んに経綸を行うべし」というんです。つまりもう市長さんも、市民も、場合によっては子供も含めて、すべて一緒になって盛んにいろいろ

ろと議論しようと、こういうわけですね。

ちなみに3つ目は、「官武一途庶民に至る迄、おのおの志を遂げ、人心をして倦まざらしめん事を要す」と難しい言葉で書いてありますけれども、官武、要するに行政、それから一途庶民、上から下の庶民にいたるまで、何か嫌だなどと思わせることはなくて、心を一つにしてやりなさいということなんですよ。

4番目は、「旧来の陋習を破り、天地の公道に基づくべし」。つまり、今までのあり方、旧来の古いやり方ではだめで、それを破っている。さっきおっしゃったですよ。気分を変えて、これまでのぬるま湯みたいなところじゃだめですよ。こういう災害の問題もあるし、危機管理のこともあるし、高齢化の問題もあるし、少子化の問題もあるし、いろんな問題があるので、今までどおりじゃやっていけないので、そしてしかし天地の公道に、だれにもわかるような公道に基づくべしと。

最後が、「智識を世界に求め大に皇基を振起すべし」、要するに日本という国を大いに盛り立てていこうと、知識を世界に求めてやっていけと、こういうふうに言われているんですが、私こういうのを発言者5さんやっているなという感じがしましたね。『五箇条の御誓文』の生きた証人であります。本当に大したものだと思いますよ。

だからこういう方がいると、もうお年寄りも、女の方も、子供たちも、難しい官僚も胸襟を開くといいですか、気楽になるんじゃないでしょうかね。お兄さんという感じですかからね。だから上の人から見ると青年という感じですし、ですから、すごくいい感じじゃないでしょうか。市民協働、市民といろんな部門の方たちが協働できる要になっておられるので、ぜひこの協働の作業が進んで、裾野の力を上げていただきたいというふうに思う次第です。

それから発言者6さん、本当に深良用水おめでとうございました。これは天下に誇れるということで、1670年ですか、したがって350年足すと2020年、オリンピックの年に350年を迎えると。オリンピックか深良用水の350周年か、こういう考えで、とにかく深良用水をそのときにしっかりやろうということなんですけど、この新田線の1.7kmぐらいでしたかね。今、交通基盤部の人はいますか。

#### 【沼津土木事務所】

今現在、仙石原新田線、工事を担当している部局でございます。なかなか進まないということで御迷惑をかけております。今の工期がもうすぐ終わりますので、次期工期について地元調整を開始したいと思っています。発言者5さんがおっしゃったように、地元とよく

話し合っただ道路をつくっていくことが大事だと思っておりますので、関係する皆様とお話ししながら次の道路整備を検討していきたいと思っております。ぜひよろしくお願いいたします。

#### 【川勝知事】

ともかく2車線化ということになれば、拡幅するとなれば、用地の取得ということについては、地域の皆様方の御協力ができないということでもありますので、こちらはやるつもりがあるということでございます。ですからよく話し合っ、だれもがウィンウィンの関係になるようにしていくことが、この仙石原新田線の2車線化につながるということですね。

それから、やっぱりこういう用水というのは、こちらだけではなくて日本中にいろいろありますよ。ですからやっぱり比較をするということも大切じゃないかと思うんですね。ですから、あつという間に世界かんがい施設遺産になったわけでございますけれども、遠くないところから遠いところまで順次日本の中にある隧道、例えば反対側の日本海側は今北陸新幹線で行けるようになりましたが、金沢というところに行きますと辰巳用水というこれも江戸時代につくられたものがあります。そうした用水だとか、あるいは山形県にもすばらしい用水があります。

日本というのは水がさあつと海に流れてしまうので、一方、水をちゃんと管理できないと稲が育ちませんね。深良用水もこれができたおかげで、たくさんの田畑が開けたわけでございますけれども、もう地球を何周もするぐらいの水の導線をつくっているんですよ。大したものなんです。そうしたものについての知識も手に入れると、今度はそんなものが例えばベトナムにあるのかとか、ないですよ、つい最近までは。

あるいは台湾というのは、日本の植民地になりました。これは日清戦争 1894 年と 95 年で日本が勝ちまして、そこを植民地にしたんですけれども、そのときに日本は用水をつくったんですよ。日本人がつくったんです。そのためにそこでお砂糖とお米ができるようになりまして、南ですからお砂糖もできるということで、それが膨大な量で輸出超過になったんですよ。

ですから水の管理というのは、日本のお家芸だったというふうにも言えますが、この江戸時代のいわゆる機械が十分ないところで、ちゃんと測量して水の動きを計測しながらしかるべく隧道をつくったりするというのはものすごいものですね。これは実は深良、深良というだけではなくて、どこと比べてどれぐらいすごいかがということがわかると、例え

ばオリンピックのときなんか自信を持って言えると思うんですね。

1万部のガイドブックをつくられたと。これもエッセンスを例えば中国語だとかハンガールだとか、こちらには今ブラジルの方もたくさんいますから、ブラジルという国はポルトガルの植民地だったものですから、ポルトガル語をしゃべられるのでポルトガル語だとか、もちろん英語だとか、そうしたものに訳しておく、また世界性が出てきますので、お国自慢することはすごく簡単ですけども、それを相手も知ってやるということが特に重要だと。

台湾はその空港からすぐ行けますから、空港を使っていただいて、富士の裾野の道は世界に通ずると、こういうわけで、その深良の用水、この水はやがて黄瀬川や何かになって駿河湾に注ぐわけですから、ですからそれはそのまま太平洋に行くわけですから、世界に通じているんだということで、水の流れと同じように、特に深良の若い青年たちですね、そういう青年たちに世界をこれを通じて知ると。手がかりがやっぱりこの水の管理、用水ですね、こうしたものが先ほど発言者5さんも水がきれいだとおっしゃっておりました。

水がきれいだというのは当たり前みたいですけども、黄河どうですか、真っ黄黄でしょう。だから黄河ですよ。

けんかしたときに、「まあまあそんなにけんかはやめて、水に流してきれいさっぱり仲良くしろ」と言いませんか。水に流してきれいになるのは水がきれいだからですね、汚いものを流してくれると。

だから日本だと、きれいな水でみそぎをして生まれ変わるとか、それは水がきれいだから、きれいなのが当たり前だと思っけていますけど、きれいな水が多いところというのは、日本を除くとほとんどないんですよ。大体汚れているんですね。

こちらのさらさらと黄瀬川みたいにああいうせせらぎというのは、当たり前みたいですけど、そうじゃないですよ。これ自体がそのまま公園になるぐらいです。

ちなみに韓国ではお茶畑が済州島にございます。済州島はやぶきたが栽培されているんですよ。やぶきたはどこが発明したんでしょうか。静岡でしょう。ミカンが置いてあるんですよ。そのミカンはどこでしょう。全部静岡県です。

向こうはお茶畑がデザートコースだというのは御存じですか。行ってみてください。大体戦後ですから、ほぼ、お茶を栽培するようになったのは。大体ライスティーといいまして、おこげができますね、ごはんを炊くと。それにお湯をぶっかけてティーとして飲んでいた。中国でも日常茶飯事ではありません。ほとんどの人は水です。

だからお茶を飲むというのが、我々は江戸時代にだれもが日常茶飯、お茶と飯と。お茶を飲むというのは、日本の庶民までそうだったわけですね。しかも特に静岡県は茶どころですからそうだったわけですが、そういう茶畑ができたというのは、年がら年中緑ですから本当に生命の色を感じて、皆がロマンチックになるんですよ。

それを知らないんじゃないかということで、ぬるま湯に浸かっているみたいだから、やっぱりどうしたらわかるかということ、深良用水もそうですけれども、ほかのところと比べる、世界を知ろうということになれば、世界の深良、世界の裾野、世界の富士山ですから。ありがとうございました。

#### 【傍聴者1】

戦中戦後を経験してきた人間でございまして、1つ知事さんにお伺いしたいことなんですけれども、学校教育において、静岡県の学力テストが悪かったというときがありましたね。私も非常に悩むわけじゃないんですけれども、そうかということになったんですけれども、その1つに私個人的なことですけれども、二宮尊徳さん、奉るというわけじゃございませんけれども、教育、道德の原点はあの辺にあるんじゃないかなと。

戦後の教育はどっちかと言えば、野菜で言うと化学肥料、堆肥をつくらなくても野菜をつくろうという土づくりが一番重要じゃないかなと思ったわけなんですけれども、その後頑張ってくれて、どこに責任があるかわかりませんけれども、知事は、二宮尊徳さんをどんなふう考えているのかな。

はっきり言って静岡県下でもあの二宮尊徳をどんなふう管理されているか、非常に疑問があるところだと思うんですよ。先ほど言いました私は道德の教育はそれが原点であろうと、私個人的には思っているんですが、その辺の見解を知事さん、お願いしたいと思います。

#### 【川勝知事】

よい御意見をいただきましてありがとうございました。尊徳さんという人は御案内のよきに、小田原の生まれですね。小田原でお生まれになって、活躍されたのが関東平野です。ですから実際は箱根を越えてこっちに来られてないわけですね。しかし尊徳さんの名声、また人格に感化されて、岡田良一郎という方が直に学ばれまして、そしてこれが原点かというので掛川に二宮尊徳の勉強会の組織を立ち上げられて、それが今大日本報徳社となっております、掛川が日本の尊徳の研究といいますか、メッカは静岡なんですよ。

ちなみに1980年代の末、90年前後にバブルがありまして、いろんな銀行は土地転がしを

したわけですね。そのときに、静岡県の銀行はどこもマネーゲームをしなかったんです。実直に銀行業務に徹せられたんですね。ちなみに地域の人たちにお金を提供する信用金庫というのがありますが、それが発祥したのは掛川です、今は全国にありますけれども。

そして、あそこの冀北学舎が今になったのが掛川西高校ですね。そして戦前には二宮尊徳さんの柴を背負って書物を読むあの像がどこにもあったのに、何であれ消えたんでしょうね。非常に不思議に思っております。ですから二宮金次郎改め二宮尊徳と、この人は親への孝行であるとか先祖への感謝の念であるとか、分度とか推譲とか、非常に難しい言葉が使われた方でありましてけれども、その精神は生きています、静岡県に最も。

ですから、そういう意味では裾野に生きています。ちなみに静岡市内に農業高等学校があります。そこには尊徳さんの胸像が置いてあるんですよ。校長先生は非常にそれを自慢されて、入った表の玄関口の前の庭のところに置かれているんですが、きっちり教えてないと、つまり寸暇を惜しんで勉強したということがなかなか伝わらないような現状になっていると思います。

しかし尊徳は日本の生んだ、しかも農民ですから、武士だけが勉強しているんじゃないということで、ちなみにお金をどう使うかということなんですけれども、日本の最高のお金は福沢諭吉さんが刷られて、あの人は慶應義塾をつくったといいますが、実際は『学問のすすめ』を書いたからだと僕は思いますね。『学問のすすめ』という本を明治5年の1月から書き始めるんです。「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」という言葉で始まる『学問のすすめ』です。

つまり人は全部上も下もないと、先ほどの発言者5さんと同じですよ、皆同じだと。上も下もない。「一国の独立の基礎は一身」、一人一人にある。「一身の独立の基礎はこれ学問にあり」、だから『学問のすすめ』。国の独立のためには学問しなさいと言ったんですよ。それはつまり農民も町民も職人も、昔の武士の皆様も同じですよ。日本を支えるためには学問をせぬといけませんよということを言ったのは、二宮尊徳の精神と同じですね。

そういうのが私は日本の原点だと。だから地域を支える、あるいは国を支えるためには、本当に主権在民というふうにならなければならない、一人一人だと。だから行政だとか、あるいはたまたま何とかなの長という名前がついているから偉いというんじゃなくて、少年でも若い青年でも偉い人がいるということで、そういう国柄になっていることは我々にとって非常に誇りですが、そこにはやっぱり尊徳さんのようなすべてのいわば身分を越えて尊敬されたような人物がすぐ隣にいらしたと。

こういう自然の豊かなところでは、自然から学ぶと。二宮尊徳さんもそういうそれぞれの地域の実情をしっかりと踏まえた上で知恵を働かして生産性を上げられるということをなさいました。

そういう意味で徹底的に話し合い、そして皆が納得してやるので、だれもがやる気ができてやったということがありますので、尊徳の精神をあわせて協働の精神の中に生かしていただければと。ありがとうございました。